

やさしい病害虫講座 28

「ニューフェイス登場」

木村 裕

2015年の秋、ハマユウの葉を主食としているハマオモトヨトウが、ならやまのベースキャンプで発生しました。私としては30年ほど前に紀州の白浜で初めてお目にかかったきりの虫でした。発生確認は、花担当の方から、見たことがない虫がいる、との情報によるものです。

黒白の縞模様のスーツを着た美人のヨトウムシさんが、タマスダレ集団の中に入り込み、細い葉を美味しそうにむしゃむしゃ食べていました。

まさかと目を疑いましたが、まぎれもなくハマオモトヨトウの幼虫でした。文献上ではタマスダレも食草の一つにはなっていました。



色鮮やかな幼虫

ハマオモトヨトウは南の暖かい地方にしか住んでいない蛾で、私も白浜で一度見ただけで、その後お目にかかったことはありませんでした。

同年の11月7日には、我が家の近くの公園でアマクリナムの葉上で数十匹の虫が寄り集まって“忘年会”を開いているのに気づきました。ちょっとした驚きでした。ついで1週間後には我が家の庭のアマクリナムの葉上でも見つかりました。

2016年の秋、再び我が家の庭で発生し、アマクリナムの葉をボロボロにしているのを発見、驚いて捕獲作戦1週間ほど続けて、大小取り混ぜて100匹ほどの虫を捕らえました。ほっと安心していると、今度はアマリスの葉でも集まっているのに

気づきました。その騒ぎが収まった頃に、タマスダレ、リコリス、ヒガンバナでも発生。かくてモグラ叩きの様相となりました。

ならやまでも再度リコリスで発生しているとのことでしたので、もう完全に腰を落ち着けたものと思います。

ヨトウムシといえば、皆さんご存知のように昼間は土の中でお眠りし、夜に“出勤”するのが習わしですが、このハマオモトヨトウは昼夜関係なく葉上にいるばかりでなく、穴掘りの技術も心得ているようで、厚い葉に穴を穿って内部に潜りこみ、葉潜りの状態で内部をぼりぼりと食い進んでいます。



葉の中に潜った幼虫

12月になっても、4cmくらいの大きなものから1cmくらいの小さなものまでおり、葉の中や地際の葉の隙間にも入り込んでいることから幼虫の状態でも冬越しが可能かも？

奈良地方は厳しい冬があるにも関わらず、なぜ突然に現れたのでしょうか？ 地球温暖化の影響かも知れませんが、私にとっては頭の痛い問題です。



タマスダレの葉上で宴会